

平成 2 1 年度病害虫発生予察指導情報
対象病害虫：ダイズ害虫（カメムシ類No. 2、ハスモンヨトウNo. 2）

平成 2 1 年 9 月 3 日
鳥取県病害虫防除所

情報の内容

8月27日～9月2日に行った県内巡回調査の結果、カメムシ類、ハスモンヨトウともに、発生は平年並となっている。しかし、向こう1か月の気象予報から、今後カメムシ類、ハスモンヨトウとも増殖に好適な条件が続くと見込まれるため、今後の発生に引き続き注意し、適切な防除に努める。

1 カメムシ類

(1) 発生状況

- ア 9月2日現在、発生ほ場率は41.7%（平年：41.1%）、25株当たり平均成幼虫数は1.1頭（平年：0.9頭）で、平年並の発生となっている。
- イ 現地ほ場ではホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシの成虫、若齢～中齢幼虫が発生している。
- ウ 予察灯におけるカメムシ類の誘殺数は平年並となっている。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 開花後の基幹防除を徹底する。
- イ 近年、9月以降増加する傾向があるので、基幹防除終了後も引き続き発生状況に注意し、発生が多い場合は追加防除を行う。

2 ハスモンヨトウ

(1) 発生状況

- ア 9月2日現在、発生ほ場率は76.9%（平年：74.2%）、1a当たりの平均白変葉か所数は1.3か所（平年：1.0か所）で、平年並の発生となっている。
- イ 現地ほ場での発生の主体は中齢幼虫である。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 新葉の出葉により、白変葉が確認されにくいほ場が多いので、観察にあたっては、ほ場周辺からの観察のみならず、ほ場内での観察も行う。
- イ 中齢～老齢幼虫が混在して発生しているほ場では、ロムダン粉剤DL、ミミックジョーカー粉剤DL、ラービフロアブル、マトリックフロアブルなどを散布すると、比較的効果が高い。
- ウ 防除の目安は、1a当たりの白変か所数3～5か所以上とする。